

安曇野市交流学習センター運営委員会 会議概要

1	協議会名	平成25年度第3回安曇野市交流学習センター運営委員会
2	日時	平成 25年 11月 7日 (木) 午後 1時30分から 3時30分まで
3	会場	安曇野市豊科交流学習センター“きぼう” 2階 学習室1
4	出席者	神谷委員長、野中副委員長、小平委員、望月委員、重野委員、清水委員、鈴木委員、宮下委員
5	市側出席者	北條教育次長、三澤文化課長、青柳穂高交流学習センター所長、宮下豊科交流学習センター所長、小林図書館係長、山田文化振興係長、権藤文化振興係主査
6	公開・非公開の別	一部非公開
7	傍聴人	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成26年 5月 8日
協 議 事 項 等		
1	会議の概要	
	1. 開 会	(北條教育次長)
	2. あいさつ	(神谷委員長) (北條教育次長)
	3. 協議・説明	(進行・神谷委員長)
	(1) 前回会議指摘事項について (回答)	
	(2) 平成25年度事業進捗状況について	
	(3) 平成26年度事業について	
	(4) その他	
2	協議概要	
	(1) 前回会議指摘事項について (回答)	
	前回会議指摘事項について事務局より回答を行った。	
	① 交流学習センターの収支について	交流学習センターの収支について、資料2により説明。
	② 豊科交流学習センターの音響について	工事の実施による音響反射板の設置は、不可能である。移動式の音響反射板を検討している。
	③ 穂高交流学習センターの駐車場の不足について	民間の事業所の駐車場の借用など、近隣に駐車場を確保するなど、さまざまな方策を検討している。
	委員長・この説明について、ご質問があればいただきたい。	
	委員・市から一定の予算が配分され、その中で予算のやりくりを行うのではなく、収支の差額が市からの予算で補てんしているのか。	
	委員長・この形式の決算書を知りたいのではなく、交流学習センターの事業として使用できる予算の規模はいくらになるかである。両施設の合計で約4,700万円の赤字となっているが、事業の実施分を市から全額予算化してもらえるのか。	
	事務局・基本的に予算要求に基づいて、財政課の査定、市長査定、市議会での議決を経て決定する。事業の直接的な経費である。維持管理費が、かなりかかっている。限られた予算内で工夫し、より効果的な事業を企画・運営する必要がある。	
	委員長・緊縮予算については良くわかるが、市からの事業費の支出について知りたいので、収支の資料の作成を求めた。	
	事務局・穂高交流学習センターの収入は約300万円、支出は約3,000万円であるので、約2,700万円が補てんである。補てん額は増額せず、極力削減する必要がある。その中で、事業を計画することが基本である。費用が増加しても、他の財源を確保し事業	

を行うなど、それを上回る収入が得られれば良い。

委員長・約3,000万円は市からの助成金か。

事務局・助成金ではなく、市の一般財源である。収入の約300万円は、有料のコンサートも含めてのものである。有料イベントの開催が増加し、収入が増加すれば収支が均衡になる。財政上の都合から、支出予算の増額は難しい。

委員長・ほかにご意見があればいただきたい。

委員長・説明を一応理解することができた。

事務局・昨年度、豊科交流学習センターにて、開催したチェンバロとヴァイオリンのコンサートは、公益財団法人三井住友海上文化財団の派遣コンサートとして市の予算を支出せずに開催した。このように、他の事業を上手に活用しながら事業を進めていくなどの工夫をしている。

委員長・ほかにご意見があればいただきたい。

委員長・ご意見がないので、次の協議に進む。

(2) 平成25年度事業進捗状況について、及び、(3) 平成26年度事業について

委員長・「平成25年度事業進捗状況について」及び「平成26年度事業について」を一括して説明をお願いします。

穂高交流学習センター所長、豊科交流学習センター所長より、平成25年度事業進捗状況及び、平成26年度事業について説明。

委員長・「平成25年度事業進捗状況について」及び「平成26年度事業について」を一括して、ご意見等をいただきたい。

委員・「あづみの新進音楽家演奏会」の参加者が少ない。

審査員の音楽大学の先生方3人への謝礼・交通費、入賞者への謝礼、「みらいのクリスマスコンサート」の演奏者2組への謝礼はいくらか。

事務局・審査員、出演者への謝礼等について回答。

委員・昨年よりも「あづみの新進音楽家演奏会」の入場者が少ない。

今年の「あづみの新進音楽家演奏会」は器楽演奏者のみの参加で、歌曲の演奏者がいなかった。歌曲も聴きたい。ただ募集して参加を待つのみではなく、市から人を通して参加依頼をしても良いのではないかと。可能な限り、演奏分野のバランスを良く、参加していただくようにしてもらいたい。

出演者の増加、出演者のモチベーションの向上のため、両コンサートの謝礼を増額すると良いのではないかと。

事務局・「あづみの新進音楽家演奏会」の定員200席は、演奏会のかなり前に満席となったが、実際の入場者は130人とどまった。当日、お越しになられなかったお客様が70名ほどいた。来年度は、当日確実にお越しいただけるよう、工夫したい。

歌曲の演奏について、来年度は工夫して、バラエティーに富んだ内容にしたい。

出演者の育成についてだが、若手演奏家の育成の場を提供するため、100円コンサートを計画している。

事務局・出演者の募集は、長野県内外の施設・ホール等、音楽学科を設置している学校等にチラシを送るなどして行っている。当事業は、今年度で3年目になる。初年度に二十数組のご応募をいただいたが、昨年度と本年度は十組前後に減少した。安曇野にゆかりのある方、今後、安曇野市で活動していく意欲のある方を条件にしているので、限られているのではないかと。他施設で実際に演奏をされている若手の演奏家の方々に声をかけるなど、努めていきたい。

出演者には、「みらいのクリスマスコンサート」への出演を目標にさせていただいているが、それとともに、市役所内を始め、学校、保育園等にも、「このような若手の音楽家がいらっしゃいます。」と出演者を紹介している。実際に安曇野市内での活動実績のある方や、市内で精力的に活動されている音楽家もでてきているので、「あづ

みの新進音楽家演奏会」の成果も表れてきている。さらに定着させ、より大勢の若手音楽家が育つように支援していきたい。

委員・・安曇野市内にも、若手を含めて、さまざまな音楽活動をされている方がいる。

6月に、市内のコンサートホールで、テノールとソプラノの演奏が行われた。歌唱のご指導もされている。テノール歌手として国際的に活躍をされている方である。その生徒さんも紹介していただくなど、地元にも視点を向けてもらいたい。

当日来場されないお客様が多かったことは、入場料が無料であったので、聴かなくても損をしないからである。新進音楽家を支援する主旨であるので、入場を有料化しても良いのではないか。入場料は500円程度とし、出演者にそれを配分すると良い。市民の方々にも、無料であるので聴くのではなく、新進音楽家を支援する目的で聴かれる方が多い。

委員長・100円コンサートは、来年1月の「みらいの新春クラシック100円コンサート」から実施するのか。たとえ100円であっても、有料化すると、ご来場されるお客様が減少するのではないか。

委員・・「あづみの新進音楽家演奏会」を3回全て聴いたが、音楽大学出身の方や各地で活躍されている方であるので、非常に内容が濃く、優れている。「みらいのクリスマスコンサート」の選出も兼ねているが、新進音楽家を育成するコンサートとして実施するので、入場料を500円に設定することは良いことである。今年は、入場整理券200席は、演奏会のかなり前に満席となったが、実際の入場者は130人とどまり、非常に寂しかったが、有料化により、当日、お客様に必ずお越しいただけるようになる。有料化に伴い、お客様の減少が危惧されるが、内容的にはそれを補っても余りあるので、有料化するべきである。

委員長・有料化することは良いが、お客様が激減しないようにするべきである。お客様に確実に越しいただける方法を検討するべきである。

委員・・各地域で入場券の販売をするべきである。有料にすると当日来ていただける。

豊科公民館ホールにて、教育委員会後援のハーモニック・コンサートを毎年開催している。非常に評判が良く、入場しきれないほどのお客様がお越しになる。入場料は1,000円、当日券も1,000円である。各地域の公民館で入場券を販売している。たとえば、明科地域の方が、わざわざ穂高地域や豊科地域に行かなくても、明科公民館で入場券を購入することができる。有料公演であるので、「購入したからには、当日聴きに行かなくてはならない。」と思い、当日も来られる。

委員・・「あづみの新進音楽家演奏会」を聴きに来られるお客様は、「新進音楽家にどのような方がいらっしゃるのか？新進音楽家を育てたい、応援したい。」という気持ちがある。無料であるから聴きに来られるわけではない。

委員・・事業が定着すれば、音楽に関心を持つ方は、リピーターになるのではないか。

委員長・当日ご来場いただける方の人数の確保が必要であれば、有料化もやむを得ないが、無料から有料にすることは、非常に難しいのではないか。

委員・・有料化により、出演者の気持ちも変わってくるのではないか。

たとえば、安曇野市中央図書館の翻訳ボランティアは、有償のボランティアである。有償であるので、下手な翻訳はできないという思いを持ち、ボランティアの会員20名で勉強している。それと同様に、出演者の方々にも謝礼等をお支払することにより、良い方向に成長できるのではないか。

委員・・交流学习センターが、演奏家ごとに入場料に差をつけるのは、主旨と異なるのではないか。

出演者側から、具体的な入場料の設定の依頼をいただいているのか。交流学习センターは、活躍の場を提供する立場である。自主企画事業のコンサートの前売り券の販売であれば良いが、交流学习センターが、前売り券を販売することは、主旨が違うのではないか。たとえば、「この音楽家は優れているので、入場料は500円に設定する。」「この音楽家は知名度が低いので、入場料は無料に設定する。」などを、交流学习センターで実施することは、主旨が違うのではないか。

委員・・「あづみの新進音楽家演奏会」では出演者から参加費をいただいて、ご応募いただ

いている。出演者に謝礼は差し上げていない。前回、「演奏家を発掘するために実施するので、参加費を低く設定するべきである。」と提案した。出演者の参加費を無料にするか否かは別として、入場料を有料化しても、出演者に謝礼を差し上げるわけではない。

委員・・経費について、入場券、パンフレット等は市で用意するのか。また、この経費のために、入場料を交流学習センターに補てんされるのか。

事務局・今年度の「あづみの新進音楽家演奏会」では、出演者から1組8,000円ずつ参加費をいただいて、出演していただいている。

近隣の県・市での事業より安く設定している。

参加費は演奏の後の、審査員との懇親会、CD・DVD等の記念品に充てている。

入場料は、ポスター、チラシ等の当事業の経費に充当する。

選出された出演者については、12月の「みらいのクリスマスコンサート」で謝礼を10万円差し上げて、演奏していただいている。

出演者にとって、コンパクトではあるが、非常に良いホールでの演奏、大勢のお客様にお聴きいただけ、3名の審査員から一人ひとりご講評をいただけるなどの利点があり、非常に喜んでいただいている。

お客様からいただいたアンケートでは、若い音楽家の成長を見守りたい、将来を楽しみにしている、という気持ちで聴いていただいている方が多い。

入場料の有料化については、内部で検討し、来年度の予算、事業計画に反映したい。

委員長・受講料の徴収、入場券の販売を行った場合は、何割か税金を支払うのか。そのまま収入になるのか。

委員・・税金の分は市からの支出か。

委員長・市に依頼して入場券を販売すると、販売する側に入場券1枚ごとに税金が課せられるが、市で販売する場合は、税金は一切かからないか。

事務局・入館料、受講料、入場券を徴収する事業は、市のみではなく、民間の施設でも実施可能である。市主催事業であっても、民間の消費税課税対象事業と類似の事業については、消費税分の徴収を行う考えが生じる。そのため、消費税増税後に、入館料を見直す場合もありうる。しかし、実際に消費税として徴収はしない。

委員長・一般的には、さまざまな事業で、入場料等をいただいた場合には、課税されるので、市主催事業では課税されないのかについて、質問した。

事務局・市の一般会計では消費税は徴収しない。

ただし、ポスターの印刷等、市から業者の方にお支払いする場合は、消費税もお支払いする。消費税の増税に伴い、市の施設使用料を全般的に見直すことは、あり得る。

委員長・ほかにご意見があればいただきたい。

副委員長・「ロビーコンサート」の騒音の問題から、多目的交流ホールで実施する「100円コンサート」に完全に移行するのか。それとも、比較的音量の小さいコンサートについては、「ロビーコンサート」として継続するのか。

事務局・完全に移行するのではない。

8月の「ロビーコンサート」は、出演希望者がいないため、中止した。

10月、26年3月の「ロビーコンサート」は、出演希望者があり、エントランスホールで実施する。

平成26年度以降についても、全て「100円コンサート」に移行するのではなく、出演希望者がいれば、「ロビーコンサート」も開催する。

今年度は、毎週水曜日の午前10時30分から実施している、子ども対象の読み聞かせの時間の「おはなしのとびら」に合わせて、チェロ演奏者の嘉納雅彦さんによる子ども対象の「ロビーコンサート」を開催した。非常に好評であったので、このような形式で継続したい。

事務局・「ロビーコンサート」は偶然お越しいただいたお客様にも、その場で音楽に接して

いただけるので、非常に意味のある事業である。

多目的交流ホールでの開催の利点として、図書館・地域学習室をご利用のお客様に騒音等の迷惑がかからない。

最近では、150名前後のお客様にお聴きいただいているので、ロビーに150席の椅子を設置して開催しているので、お客様の増加への対応が容易である。

平成26年度には、エントランスホールで開催する事業と、多目的交流ホールで開催する事業を企画したい。

副委員長・多目的交流ホールよりも、展示ギャラリーのほうが空いている日が多いので、展示ギャラリーで「ロビーコンサート」を開催しても良いのではないかと。また、両施設の所管は同じである。

事務局・展示ギャラリーは、地域学習室に近接しているので、「ロビーコンサート」での使用は困難である。

「ロビーコンサート」のリハーサルは、多目的交流ホールで行っているが、本番はエントランスホールに出られて、150席の客席の前で演奏している。それであれば、本番も多目的交流ホールで開催するほうが良いのではないかと。

委員・10月5日、長野サクソフォークワルテットによる演奏が行われた。サクソフォークワルテットを初めて聴いたが、楽しめた。

自治会の敬老会にソプラノ歌手の倉科有紀さんと、電子ピアノ伴奏の宇留賀美恵さんに出演していただき、日本の歌曲を中心に演奏していただいた。日本の楽曲を中心に歌っていただいた。これまで、音楽会に来られた経験の少ない、高齢者の方々にも喜んでいただけた。謝礼を2万円ずつ差し上げた。1人ずつ出演する場合も2万円を差し上げている。敬老会でも、予算は限られているが、これくらいが相場とのことで、実施してきたとのことである。地域活動・自治会活動・公民館活動をしている人にとっても、「ロビーコンサート」はアイデアをいただく機会となった。「ロビーコンサート」で演奏家と知り合って、自分の地域にもお越しいただくことも可能になるので、ぜひ継続してもらいたい。

騒音問題を考慮し、会場をエントランスホールから音響の整った多目的交流ホールに変更して、大勢のお客様に、集中して聴いていただくことは、非常に良い。

出演希望者が減少しているが、謝礼が図書カード2,000円のみで驚いた。例えば、長野市から交通費をかけて来られている出演者もいるが、よく今まで参加していただけたと、感心する。

5月や10月などの季節の良い時期に、交流広場や隣接する安曇野市三枚橋公園で野外コンサートを企画してはどうか。

屋外で開催すれば、図書館や地域学習室への騒音の問題も解消する。

通りかかった方々が、「何か楽しいことをしている。」と思い、参加者が増加するのではないかと。

委員長・敬老会でクラシックは、よく成功されたと感心する。

委員・これまでは、民謡、カラオケ大会、演歌歌手の公演等を行ってきた。前回は、明科地域の二胡奏者に演奏していただいた。

委員長・高齢者の方々にとっては、クラシックは雑音のように聴こえてしまう場合もあるのではないかと。

委員・その点は懸念していたが、近隣にコンサートホールがあり、行かれる方も多い。曲目を演奏家と相談し、11曲を演奏していただいた。高齢者の方々も若かった頃に歌っていた歌を選曲した。また、プログラムの途中には、クラシックも入れた。

「これまでの敬老会では、その内容に、あまり期待をしていなかったが、今回は大変良い内容であった。」と、好評の声が圧倒的に多かった。「ロビーコンサート」に、そのきっかけを与えてもらったので、ぜひ、継続してもらいたい。

委員長・ほかにご意見があればいただきたい。

委員・展示ギャラリーの稼働率が低いと、明科地域で放課後子ども教室「明南わいわいランド」を利用している児童の中で、安曇野市中央図書館に行った経験を持つ児童の割合は、3分の2以下である。保護者の同伴がないと行くことが難しい場所であ

るので、利用が少ないのはやむを得ないが、利用の少なさに衝撃を受けた。文化祭や「あずみの里健康福祉まつり」では、子どもが出演する場には必ず保護者も来場している。

明科地域で、安曇野市明科子どもと大人の交流学習施設「ひまわり」の設置に向けた運動が行われていた当時、「読書感想文」ではなく、読んだ本の感想を絵に表し、展示して、学校を通じてお願いし、美術の先生に審査していただいて、表彰したこともあった。自分の子どもが出展すると、見に来られる。

このように、離れた地域に住んでいても、安曇野市中央図書館や安曇野市豊科図書館に1度は子どもを連れて行って、本を借りてみる体験も必要ではないか。展示ギャラリーを利用して、このような催しを行ってはどうか。

委員長・いただいたご意見を、今後の事業計画に活かしたい。

事務局・展示ギャラリーで子どもたちの読書感想画の展示、読書週間のおすすめ本の展示など考えたい。

委員長・ほかにご意見があればいただきたい。

委員・柱となるものを季節毎に展示、または、夏休みの課題図書 of 感想画の募集や、絵画や写真の上手な児童・生徒もいるので、十人十色であるので、自分たちの思っている安曇野の原風景の募集を行ってはどうか。

「夏休みの課題図書」、「安曇野」「スポーツ」にテーマを絞る、または、平成27年の大糸線開業100周年を記念して、「鉄道」、「乗り物」、「安曇野の風景」などのテーマを設定するほうが、子どもたちにとって描きやすい。画家も写真家もいるので、2年後～3年後に、この事業を行うための大きな柱となるものを組み立てていく必要がある。

7年後の2020年に開催の東京オリンピックは、非常に大きなエネルギーを発する。安曇野にも聖火リレーが来ると思うが、長野冬季オリンピック、札幌冬季オリンピック、1964年の東京オリンピックの資料についても、今から少しずつ収集してはどうか。会場に行く機会があまりなくても、穂高交流学習センター、豊科交流学習センターで、夢を与えられて、気持ちが高まるように、組み立てていくことも重要ではないか。それほど大層な資料を収集することができなくても、当時の新聞の号外をロビーに展示するのみでも、目にとめる方もかなりいるのではないか。

委員長・いただいたご意見の内容については、検討してもらい、期待に応えられるような答えを出せるように、努力してもらいたい。

事務局・いただいたご意見について、将来的なことも考慮しつつ、入れていきたい。例えば、拾ヶ堰や天蚕など、子どもたちに学んでもらいたいことも多数あるので、企画に取り入れたい。

委員長・課題は多いが、企画してもらいたい。

委員・展示ギャラリーの利用件数が開館以来最低水準に留まっている。「ギャラリーの利用条件等の見直しを検討したい。」とあるが、具体的にはどのようなことか。展示ギャラリーの使用料を安くすることも含めての見直しか。

事務局・開館1年目と2年目は自主企画事業で多数使用した。

利用率は高かったが、使用を希望する市民の方々が使用できる日が限られてしまった。

その反省から、3年目と4年目は可能な限り自主企画事業を減らした。

その結果、利用率が低下してしまった。

以前から、委員よりご指摘いただいている、「展示ギャラリーの使用料は、市内の民間施設よりも高い。」ことについては、直ちに安くすることできない。しかし、利用率を十分検討した上で、消費税の増税、類似施設のある公民館との利用時間帯・料金の差異を考慮し、今後見直しをしたい。

委員・有料の展覧会などの営利目的ではなく、市民のさまざまな自主的な活動を発表する場を提供するのであれば、無料でも良いのではないか。図書館で本を無料で借りることができるのと同様である。安曇野では非常に活発に行われている、市民の自主的な活動を、市民の方々に知っていただくための利用の場合は、無料化を検討し

ても良いのではないか。

貸し館事業で、申込みをただ単に待つのではなく、交流学习センターには、プロデューサーの機能もあるのではないか。市民が普段どのような活動をしているのか、アンテナを張り、グループを発掘し、「ぜひ、このギャラリーを使用して展示してください。無料で提供します。そのグループと共催で展示しましょう。」などと呼びかけ、市民の方々にも発表意欲を高めていただくようにすることも必要ではないか。ポスターで利用のご案内を掲示しているが、そのみでは、不十分である。先ほどの説明のように、児童・生徒の読書感想を絵で表現することも良い試みではあるが、たとえば、安曇野の歴史を写真でたどることについて、提案する。

市民の方々から昔の写真を提供していただき、それをスキャナーで読み込み、デジタル化すると、元の写真はお返しできる。たとえば、旧国道147号線の保高宿周辺は、昔はこれだけにぎわっていたことなどを、知ることができる写真もある。市民グループと市が協力してできるのではないか。

委員長・展示ギャラリーの使用料の無料化については、毎回ご意見をいただいているが、可能な限り検討して、実現してもらいたい。

先日、道祖神の展示を見た。その内容は現代の状況である。道祖神と、いわゆる御柱は、異なる。壁にかけられた道祖神の写真には、500体の道祖神が写っている。本日も地域の歴史家の方とお話しをしたが、地域を良くするためには、もう少し前の時代のものを研究し、発表していただきたい。

そのような過去の歴史・事実まで掘り下げながら、みなさんとともに研究をしていくことも、地域を知るうえで、大事ではないか。もっと進んだものを展示してもらいながら、市民の方々に勉強していただきたい。そのような研究者は何人かいるので、そのような方々を発掘してもらいたい。80歳の方が、万が一亡くなられてしまうと、昭和25年代から昭和30年代の、いわゆる変わりの時期のことを知っている人がいなくなるので、忘れられてしまう。本日、地域の歴史家の方に、「地図の中にきちんと打ち込んでおいて、そのような歴史の証人がいなくなっても、歴史として残るように、急いで取り組んでももらいたい。」という話もした。工夫して取り組んでももらいたい。

穂高交流学习センターでも道祖神について取りあげてはどうか。歴史系の展示は、懐かしさを感じ、興味を持たれる方が多い。このようなことについても、今後の企画について検討してもらいたい。

委員・先ほどご意見をいただいたとおり、交流学习センターと他の施設との違いは、プロデュース機能の有無である。さまざまな活動で利用するが、それを上手に、さまざまなことにつなげていくプロデューサーが必要ではないか。三郷地域には交流学习センターを設置するが、堀金地域には設置しないので、その違いがでてくるのではないか。堀金地域にも、プロデューサーが必要ではないか。

委員長・堀金地域と明科地域の文化祭を見たが、さまざまな面で、両地域は本当に立派である。堀金地域と明科地域にも、早く、交流学习センターを設置すると良いのではないか。

委員長・本日の公開部分の協議は15時20分までであるが、ご意見があればいただきたい。

委員・地域には、残すべき歴史が多数あるが、それを残すことに対して抵抗する人もいる。将来残したいものは、地域ごとに異なるが、それを全て教育委員会や行政にしてもらうことは難しい。市民の方々が声を掛け合い、市民活動により、行政に投げかけることや、逆に行政側から、たとえば、「平成27年に、安曇野市誕生10周年記念事業を実施するので、それに関連して発表していただける人に、教育委員会へ来ていただきたい。」と働きかけるなど、市民の気持ちを駆り立てるようなシステムの構築が必要ではないか。

安曇野市商工会のイベント活動で、寄席を企画している。また、熊井啓監督の出身地であるので、映画上映会も企画した。これらの活動を行うことにより、「自分たちはこのように考えているが、行政はどのように考えているか？」という視点を持つようになり、車の両輪になっていくことが可能になる。

収集が必要な資料は多数あるので、受け入れられるものは何でも受け入れる姿勢が重要である。収集計画の策定に際しては、骨格をつくり、それに関して研究している方や興味をお持ちの方に、資料等の提供をお願いし、少しずつ収集する必要がある。一度にすべての資料を収集しても、整理がつかなくなる。

行政に何かをしてもらうのではなく、行政に対して何ができるのかが大事である。

委員長・さまざまなご意見をいただき、ありがとうございました。公開部分の協議の終了時刻となったので、協議を終了する。

以上